

▶ セーフティ・ファーストエイド研修を実施して ◀

千葉県千葉市消防団

1. 千葉市について

千葉市は、人口約97万人、面積約271.8km²で、日本一の総延長距離の人工海浜、懸垂型モノレールとして営業距離世界最長のモノレールと世界最古の花（約2000年前の種子から開花）である大賀ハスを有し、郊外には里山も残る、温暖な気候に恵まれた都市です。



大賀ハス

また、千葉市の市章が「初音ミク」に似ていることから、初音ミクをデザインした特別市章を公式ホームページにアップしたこともある（平成29年8月31日限定。現在は終了しています！）ユーモア溢れる都市でもあります。



「初音ミク」コラボの特別市章

2. 千葉市消防団について

千葉市消防団は1団6方面隊18分団74部で構成されています。条例定数は840人で、平成30年4月1日現在の団員数は739名（うち女性団員163名）です。

全国の女性団員率が約3%であるのに対し、千葉市は約22%と高比率を誇り、全国でも女性が積極的に活動している団であると言えます。

女性部の活動としては、応急手当普及の他、防火・防災予防広報に力を入れています。近年では防災や救急に関する紙芝居や寸劇を消防関係イベント時に披露し、好評を博しました。

3. 研修実施の経緯について

現在千葉市消防団では「コノハナサクヤプラン（女性消防団員3か年計画）」を策定し、平成29～31年度の期間で実施中です。

プランの方針の一つとして「災害現場での後方支援活動の強化」があります。

この災害後方支援の一環として、被災者等に対する災害時メンタルヘルスケアつまり心理的応急処置（PFA）の実施を検討することになりました。

そこでPFAが学べる研修会を探していたところ、消防基金が実施している「セーフティ・ファーストエイド研修」を知り、今回の研修の実施となりました。

4. 研修の概要

平成30年7月19日（木）に千葉市消防局講堂にて行われ、千葉市消防団女性団員49名が受講しました。講師として、千葉県精神保健福祉センターの臨床心理士 原島あゆみ先生にお越しいただきました。



千葉県精神保健福祉センター
臨床心理士 原島 あゆみ 先生

研修では、前半にPFAの前提となる人道支援及び災害時メンタルヘルスについて、その後本題のPFAについて、最後に支援者（PFA等を実施する側）の反応・ケアについて講義をいただきました。

今回の研修は、基本的に講義形式で実施しましたが、PFAの重要な技術である「傾聴」については、ロールプレイを実施していただき、「被災者がどうしてもらったら話しやすいか」「支援者が何を心がけて被災者の話を聞くのか」について体験することができました。



5. 研修を終えて

今回の研修で特に勉強になったのは、「被災者目線の支援」と「支援者の心理的ダメージ」の2点です。

「被災者目線の支援」は災害の度に問題となっ



研修の様子

ています。被災地の受入体制を考慮しない物資の支援等は、過去の災害事例でもよく聞きます。PFAでは、「支援をおしつけない」、「無理強ひせず傾聴する」といったように「被災者に合わせた支援」を重要視しています。支援は「支援者の自己満足」のためでなく、「被災者を支える」ために行われるということを忘れてはならないと思います。

また、「支援者の心理的ダメージ」は非常に重要です。支援者も被災者に対する支援を実施することで様々なストレスを受け、少なくない心理的ダメージを負います。「自己の安全」は安全管理で最も重要ですが、心理的な「自己の安全」に関しては軽視されがちだと思います。今後消防団がPFA等を実施する際は、まず「支援者の心理的ダメージ」に対する対策を十分にとる必要があると思いました。

今回の研修でPFAについて概要を理解することができました。大災害でも通常火災でも非常に有用であり、消防団員でも実施することが可能なため、今後さらに研修を発展させていきたいと考えています。

最後に、本研修を実施するにあたりお世話になった原島先生、消防団員等公務災害補償等共済基金の皆様には厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。